

CONTENTS

広報

ななほ

2009 No.56

5

● 目次

- 2 ひと人ひと
- 3 特集 マクベス
- 7 長谷川等伯展 知っ得情報
- 8 21年度事業のそこが知りたい①
- 10 今年も健診（検診）時期がやってきた
- 12 なるほどなっとく市政講座
- 14 と〜くあばうと／市長談話室／
ななこちゃんのエコ生活
- 15 今月の市民相談／
ケーブルテレビ番組紹介
- 16 情報ランド
- 20 まちの顔
- 22 伸ばせ！七尾っ子プロジェクト／
児童館へ行こう
- 23 イベント情報
- 24 休日医療情報／不用品活用銀行
- 25 みんなの本棚
- 26 能登よさこい祭り／
わが家のアイドル

今月の表紙

旧中島町時代から地域に愛されてきた6つの保育園が統合され、新しい中島保育園が誕生しました。

保育園児たちの元気な笑顔を眺めていると、見ているこちら側も自然と笑顔になります。そして同時に、この笑顔をいつまでも守らなければならないという気持ちになりました。

地域の財産としてこの保育園をどう守り、どう活かしていくのか。地域住民一人ひとりが考えなければならないことではないでしょうか。

(※20ページに関連記事)

ひと

ヒト

酒井藤雄さん

Sakai Fujio (温井町)



演劇は新しい世界に
導いてくれる「どこでもドア」

演劇との出会いは高校時代。友人から頼まれ、演劇部に8カ月ほど所属。その後は特に活動もなく、教師となって平成7年に母校へ赴任。「演劇部の顧問をやってくれ」その一言が全ての始まり。偶然にも能登演劇堂が完成した年のことだった。同年、中島高校普通科の選択科目として演劇の授業が導入される。12年には演劇コースが独立して設置され、より本格的な形で演劇との付き合いが始まった。

全員が舞台上に立つことを原則としている。「代役はしよせん代役に過ぎない。だからこそ、そこにその人の存在価値を見いだすことができるし、演劇独特のおもしろさがある」と力を込める。見せることに対しての妥協は許さない。「人前で舞台上立つからにはプロも素人も関係ない。観客は正直なもので、おもしろくないものには興味を示さない。だから、みんな表現することを真剣に考えるようになるし、その苦しみを乗り越えたときに感動がある」と言い切る。

「それまで学校の世界しか知らなかった自分が、演劇を通じて学校と地域の両方で活動することができた。たくさんの人たちと出会えたことが、この学校に来て本当に幸せなことだった」と満げに話す。「自分自身が大きく変わった」そう話す表情からも演劇の魅力が十分に伝わってきた。

6月19日(金)~20日(土) 中島高校普通科演劇コース 第8期生卒業公演「モモ」 原作ミヒャエル・エンデ

能登演劇堂ロングラン公演

特集

マクベス

能登でしか味わえない
豪華な演出

その瞬間を見逃すな!

9月18日から50日間にわたり、能登演劇堂の第4回ロングラン公演「マクベス」が始まります。

今月号では皆さんに「マクベス」を知っていただくために、その魅力をお伝えします。

今回は「能登限定」公演です。

市民の皆さんに生の感動を味わってもらい、市外の方にもぜひ七尾を訪れてもらいたいと思います。

それでは「マクベス」の世界へ皆さんをご招待します。

